

ICTを活用した合同部活動

高校部活動の現状

高校の運動部活動については、個々の心身の成長にあった指導が必要なことや全国大会での活躍を目指す部もあるため、より専門性の高い技術が必要である。そのため、運動部活動顧問には、専門知識と指導技術が必要になる。しかし、全部活動に専門の顧問を配置できない現状がある。指導ができない顧問は、専門指導ができないことで精神的な負担になっている。県では、専門的知識を有する社会人指導者や部活動指導員を派遣する事業を実施している。

参考

<運動部活動指導員の配置：教職員課、体育健康課>

○単独指導、単独引率ができる部活動指導員配置

- ・ R 1：県立高校モデル事業（10校15名） 公立中学校へ72名
- ・ R 2：県立高校へ64名を配置 公立中学校へ75名
- ・ R 3：県立高校へ62名を配置 公立中学校へ91名

<社会人指導者の派遣：体育健康課>

○専門的技量を有する社会人指導者を派遣

- ・ R 1：51校96名
- ・ R 2：51校85名
- ・ R 3：45校91名



【国】令和3年度地域運動部活動推進事業(合同部活動等の推進に関する実践研究)

1. 趣旨・目的

高等学校の部活動は、中学校段階の指導を基礎に、より専門的な指導を要する。また、専門的な指導には技術指導のみならず、年間を通して計画に基づいた練習方法や競技知識、大会までの調整方法などの様々な指導に関する知識が必要である。しかし、運動部活動の顧問が、専門的知識や競技経験がないため、指導ができない精神的負担の軽減や生徒が専門指導を受けられないことから、他校の専門知識を有する顧問がICTを活用して指導を行う。

2. 課題・背景

高校の運動部活動については、個々の心身の成長にあった指導が必要なことや全国大会での活躍を目指す部もあるため、より専門性の高い指導技能が必要であるが、全部活動に専門の顧問を配置できない現状がある。指導ができない顧問は、精神的な負担になっていることから、県では、教員の負担軽減と生徒の競技力向上へのニーズに答えるため、専門的知識を有する社会人指導者や部活動指導員を派遣する事業を実施して来た。しかし、地域によっては希望する指導者の確保が困難な状況も見られる。そこで、R2年度、県立学校にICT環境が整備されたことで、学校間をICTで繋ぐことが可能になったため、移動しなくても専門顧問から指導が受けられるICTを活用した合同部活動の実践研究を進めることとした。

3. 目 標

- ・ 生徒個々の能力に合わせた技術の習得
- ・ 指導者の指導に関する知識の蓄積

ICTを活用した合同部活動

4. 実践概要

○実践部活動（陸上競技）

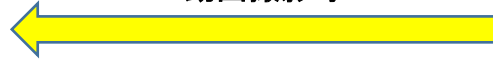
陸上競技は、様々な種目がある競技のため、指導者には、すべての種目の指導技能が必要であるが、多くの指導者は専門とする種目以外の種目指導に苦慮している現状がある。

拠点校 2【県立坂下高校】

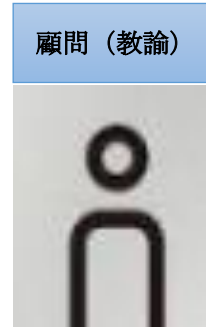
生徒



1. 動画撮影等



顧問（教諭）



4. 指導



専門的技術の指導・知識の習得

指導ノウハウの蓄積

3. 動画アドバイス等

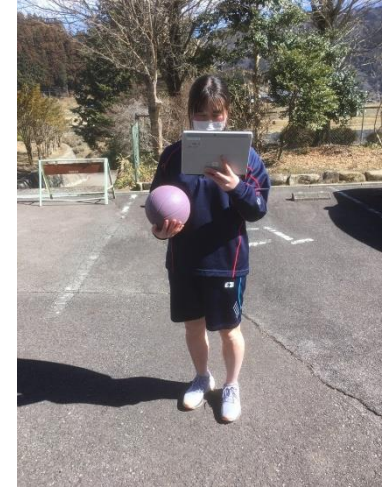


拠点校 1【県立長良高校】

2. 動画送信



専門顧問（教諭）



ICTを活用した合同部活動

5. 実践

○ICTを活用した指導

- ・4月～2月 月2回程度

○対面指導

- ・5回（県高校総体、県選手権、県新人戦、強化練習会×2）

○練習計画の提示、大会に向けた調整指導等

- ・随時

○Web会議（運営委員会）

- ・4月、8月、11月、1月

○対面会議（運営委員会）

- ・5月、7月、10月（大会会場にて）

※新型コロナウイルスの影響で、当初予定していた大会会場以外での対面指導及び対面会議（運営会議）を中止

①【どうしたら関係団体と円滑に地域移行を推進できる体制を構築できるか】

- ・推進体制構築を含めた環境整備が必要
- ・指導方針の共通理解が必要
- ・指導ノウハウの伝播を含め、本事業の円滑な推進には顧問同士のコミュニケーションが重要

⇒2校間の連絡・調整や、運営会議をセッティングする人材の配置が必要

②【どのような支援が拠点校の取組や関係団体の協働を効果的に促進することができるか】

- ・実践研究では新型コロナウイルスの影響により、予定していた対面指導や打ち合わせが中止となったことから、経費「0」を実現

⇒運営経費（拠点校2）に対する支援

⇒様々な課題に対して的確に対応できる人材の配置

6. 成果

○選手

- ・自己ベスト更新、東海総体・東海新人大会出場

○顧問

- ・専門指導ノウハウの蓄積
- ・専門指導ができないことへの精神的負担の軽減

○共通

- ・時間の有効活用
- ・経費削減

※新型コロナウイルスの影響による

④【どうすれば改革の取組を円滑に他地域に普及していけるか】

- ・専門指導を必要とする学校と専門指導を提供できる指導者のマッチングが必要

⇒ニーズの把握や指導者の派遣・管理を担う人材の配置

⑤【実践研究における活動実績や得られたデータ】※アンケートより

⇒選手：専門の技術指導を定期的に受けることができた。

技術ポイントを日常の練習でも確認できた。

効果的な練習を積むことで記録が向上した。

⇒顧問：専門指導のノウハウを日常の指導において活用できた。

⇒共通：移動時間が不要であり、効率的な活動ができた。

7. 課題

○対面指導

- ・遠隔指導の効果を高めるために、定期的な対面指導が必要

③【どのようにして、それぞれの課題を克服していくのか】

- ・計画的に対面指導を実施

⇒技術指導には定期的な対面指導が不可欠であることから、時間の確保と併に、移動にかかる費用弁償や謝金の手当てが必要

⇒費用弁償や謝金の財源確保